



ふいごの話 3

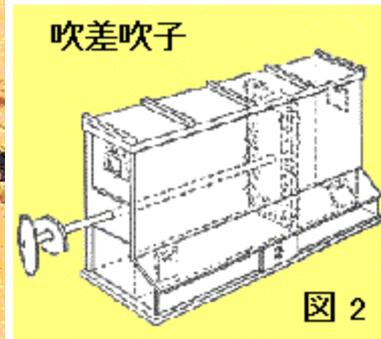
吹差吹子（ふきさしふいご）別名、箱ふいご。下図のふいごは糸原記念館の掛け軸にある刀鍛冶のふいごです。（島根県仁多郡横田町）

ふいごは鍛冶屋の代表的な道具として知られています。構造は、図2のように機密性の高い箱で底の部分に特殊な工夫がなされ、風の分配が均等で、押しでも引いても風を送れるようになっています。

鍛冶屋は『ふいご』を大切にしていました。今でも、11月8日ころに『ふいご祭り』をしている会社や地域も残っています。このふいご祭りには以下のような言い伝えが残っています。

昔、11月8日のこと。ある鍛冶屋に客が来たので仕事を終え、酒を飲んでいました。その時、逃亡者らしい者が逃げ込んで来て、かくまってほしいと言う。それで吹子の中へかくしその上に神酒、燈明、食べ物、それにしめ縄を張り礼拝しているふりをしました。すると逃亡者を出せ、と追手がやってきました。家中を探しましたが見つからず、最後に吹子に目をつけ中を見ようとした時、「今日は吹子祭なので明日にしてほしい」と言いつてその場を逃れました。そして吹子の中をみると、居るはずの逃亡者がいなくなっていました。

その後、その鍛冶屋が繁盛したので、毎年11月8日に吹子の祭りをするようになりました。



参考資料

和鋼博物館の案内
糸原記念館

鉄山必要記事（鉄山秘書）、下原重仲によって江戸時代（1784年）に書かれたたたら製鉄に関する書物に出てくるふいご祭りの縁起を現代の言葉に直しました。
☆ 各地の、ふいご祭りに関する資料がございましたら、お教えてください。

あけまして おめでとう ございます
今年もよろしくご指導ください